

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/09/05 ～2019/09/30)

1. 勉学の状況

学部では2つ、留学生向けのフランス語（DELCLIFE と呼ばれています）の授業では3つ授業を取ることにしました。学部とDELCLIFE では履修登録などのシステムが違うため、別々に書きたいと思います。

学部の授業については、コーディネーターさんや学生チューターと相談しながら履修を決めました。5月ごろに提出した *contrat d'études préalable*（事前の履修予定書）で大まかに履修予定は決めていたのですが、セメスターや学年の区別がわかっていなかったため、ほぼ1から取りたい授業を考えました。授業の本登録はまた *contrat d'études* という用紙に記入して行うようですが、まだ用紙をもらっていません。10月中旬までは授業変更をできるようなので、おそらくその後になると思います。

授業は *Stylistique*（文体論）と *Littérature française 19^{ème} siècle*（19世紀フランス文学）を取っています。どちらの授業も先生の話から単語を聞き取ることはできるのですが、内容を理解するには程遠く、ノートを作るのもままなりません。正直最初から学部の授業を理解できるとは思っていなかったのですが、実際に授業に参加してみると自分のあまりの出来なさに悲しくなります。クラスメイトにノートを写させてもらったり、参考書のどの部分かその授業回に該当するか先生に尋ね、その部分を読んだりして勉強しています。また日本から持ってきたフランス史の本や千葉大で以前使っていた文学理論の参考書も勉強に役立っています。

DELCLIFE ではクラス分けのテストが19日にありました。テスト内容は去年派遣留学をしていた先輩の受けたものと同じで、作文と面接です。クラスは初級（A1）、中級（A2,B1）、上級（B2,C1）に分かれていて、私は中級のクラスに入りました。上級は文化理解の授業があって楽しそうなので、次の学期に上に上がれるよう頑張りたいと思っています。

クラス分けの結果は面接終了時に直接先生から伝えられます。履修登録は翌日で、先生と一対一で相談しながら自分の取りたい授業を選び、用紙に書いて提出します。

中級クラスでは、*Expression écrite*（文章表現）、*Compréhension de l'écrit*（文章読解）、*Expression oral*（口頭表現）、*Grammaire*（文法）の4つの選択肢があり、私は *Grammaire* 以外の3つを取っています。*Expression écrite* はまだ少し余裕を持って参加できていますが、他の2つは思っていたよりも難しいです。語彙が足りないせいで文章を理解できなかったり、思うように発言できなかったりするので、語彙をこれからコツコツ増やしていきたいです。

また、私の取っているクラスはほとんどがヨーロッパ圏の学生で、しかもそれぞれ同じ国同士で固まっているので少し肩身が狭いのですが、これから仲良くなれたらいいなと思います。

学部もDELCLIFEも授業は23日から始まったばかりなので、これからも予習復習を怠らずに授業についていきたいと思っています。

そのほかの活動として、文学部の留学生のためにコーディネーターと先生が立ち上げてくださったプロジェクトに参加しています。内容は本に関するガイドを作るというもので、パリの本屋や図書館、編集社などを巡る予定で

す。参加は自由だったのですが、留学中しかできない貴重な体験だと思ったので参加することにしました。本に関わる様々な職種の方の話を聞ける滅多にない機会ですが、語学力が及ばず理解できないこともしばしばあって残念です。

2. 生活の状況

コーディネーターの方から13日までには来るように、また金曜午後と土日には入寮できないことがわかっていたので、5日の早朝に到着する便で来ました。空港から寮までバスとメトロを乗り継いで行ったのですが、スーツケースなどの大荷物を持っての移動はとても大変でした。

直近の春休みにもフランスへ語学留学で3週間ほど来ていたので、日本との生活様式の違いや買い物の仕方などには割合にすぐ馴染むことができてよかったです。

こちらに来てからの事務手続きなどを以下に記していきます。

(1) 寮について

・入寮手続き

こちらではCROUSという大学生協に似た組織が運営する寮に入っています。5月ごろに大学への留学手続きと同時に入寮希望も出したのですが、実際に入寮できるのが決まったのは7月中旬でした。この地域にはCROUSの寮が2つありますが、私は大学に近い方に入ることができました（去年の先輩は1つ隣駅のそばの寮だったそうです）。しかし、管理事務所は別の方にあるため、一旦そこで入寮手続きをします。必要なものはパスポートと住宅保険証、顔写真、デポジット金などですが、これは事前にCROUSから連絡が来ていました。

手続き後は実際に住む方の寮に移動し、管理人に電話をして鍵を受け取ってと言われたのですが、ここで問題が発生しました（笑）。寮の近辺は住宅地なので似たようなマンションが大量にあり、最初はどの建物が寮かわかりませんでした。また電話に関しても、私が用意していたSIMカードは電話が使えないタイプだったため、管理人と連絡を取ることができませんでした（管理人は寮内にいるのですが、玄関がオートロックのため入ることができない）。結局近くにいた人に電話を貸してもらって解決したのですが、ここまで来て寮に入れなかったらどうしようとヒヤヒヤしました。

・ルームメイトについて

ルームメイトは中国人の女の子で、偶然にも同じ文学部への留学生でした。彼女の大学からは他に3人が来ていて、みんなと仲良くなることができました。取っている授業がまったく違うので生活リズムが合わず、ご飯は別々に食べることが多いですが、一緒に買い物をしたりパりに遊びに行ったりしています。

・環境について

思っていたよりも部屋は広く、綺麗でした。収納スペースやコンセントも十分にあります。ルームメイトとの共有部分はキッチンとトイレで、シャワーと洗面台は個々の部屋についています。壁はかなり薄いので音は漏れやすいですが、それを除けば十分プライバシーは保たれていると思います。

一方で、寮の外では深夜に若者たちが騒いでいるなどあまり治安がいいとは思えないので、日が暮れてからは一人で行動しないようにしています。

(2) 滞在許可証

日本でビザを取得して来ましたが、それだけでは滞在許可証として不十分なので有効化する手続きが必要になります。今年の 2 月からオンラインでできるようになりました。Timbre fiscal と呼ばれる印紙を 60€分購入し、OFII（移民局）のサイトで手続きを行います。具体的なやり方については留学前に行われた Campus France の留学セミナーで説明されたので、今後フランスに留学する人には参加をお勧めします。

(3) 社会保険 (la sécurité sociale)

外国人留学生でも社会保険に無料で加入することができますが、手続きは各自がオンラインで行う必要があります。加入後に受け取る Carte Vitale を提示するだけで医療費の負担が 3 割になります。

こちらも Campus France の資料に沿って行いましたが、入力内容が多くて大変でした。手続きをするのが遅くなってしまったので、まだ書類が審査中で社会保険の証明書を手に入れられていません。加入手続きにはパスポートなどの他、戸籍謄本か抄本を法定翻訳した書類と IBAN コード（フランスの銀行の口座番号）が必要になります。

(4) 銀行口座開設

フランスでは保険や住宅補助などいろいろな場面で銀行の口座番号が必要になるので、できるだけ早めに口座開設をしたいと思っていました。日本人スタッフのいる銀行にしようとは思っていたのですが、先輩方が使っていた LCL 銀行より Caisse d'Epargne という銀行の方が手数料が安く良いとフランス人の知り合いに教えてもらったのでそちらにしました。Caisse d'Epargne ジャパンデスクで調べると、日本語のサイトも出て来ます。フランスでは口座開設に予約が必要で、留学生が多いこの時期はすぐに予約が取れないだろうと諦めていましたが、幸運なことにすぐ予約を取ることができました。

口座への初入金時に 400€のデポジットが必要だったのですが、手元にそれだけの現金がなかったこと、クレジットカードでは入金することができなかったため、両親に国際送金をお願いしました。

(5) 電気契約

寮の部屋にはメーターがついていて、個別に電気を契約する必要があります。入寮してすぐに電気が使えていたこと、電気契約にはフランスの銀行口座が必要だと思っていたので放置していたら電気が止まってしまいました…。EDF という最大手の会社と契約しようと思ったものの、フランス語で電話でやりとりするのはとても難しく、結局寮の管理人さんをお願いしました。契約後はオンライン上にアカウントができ、料金の支払いなどができます。クレジットカードでの支払いもできました。契約した後も数日間は電気が使えずにとても困っていたのですが、管理人さんに再度相談したところ、ブレーカーが落ちていたままだったようです。とにかく電気に関しては早めに契約することをお勧めします。

(6) CAF（住宅補助）

フランスの銀行口座を持ち、1 年間のビザを持っている場合は住宅補助の申請をすることができます。申請が受理されれば 10%から 20%が補助されるようです。こちらも申請が遅くなってしまったので、まだ全ての手続きが終わっていない状態です。手続きはオンラインで行い、いまは受付番号が郵送されるのを待っています。

次に留学する人のために、私を手間取ったことを書いておきます。手続きの途中で SIRET（貸主を識別する番号）を求められますが、これは 9 月中旬に CROUS から送られる attestation の 1 つに書いて

あります。

(7) 通学定期券 (Imagine R)

定期券 Navigo の一種で、学生は 1 年間 350€でイル・ド・フランスの公共交通機関を使うことができます。申請はオンライン、もしくは駅窓口で書類をもらって郵送でもできますが、私はオンラインで行いました。申請から 2 週間ほどで定期券が郵送で届きます。形としては日本のスイカやパスモと似ていますが、違う点は顔写真がついていることです。定期の有効期限の開始日が 9/1,10/1,11/1…と月初めに固定されているので、早めに買ったほうがお得かなと思います。

(8) スマートフォン

日本で使っていた SIM を入れ替え、フランスの会社のものを使用することにしました。渡航前に SIM ロック解除と電話番号やアドレス保管の手続きをしておきます。去年の先輩同様、私も Free というキャリアを選びました。メトロで一駅先のショッピングセンターにこのショップがあり、店頭の機械で SIM を買うことができます。アクティベートは店員さんをお願いしたのでスムーズに済ませる事が出来ました。

(9) 買い物について

寮は家具付きなのですが、ベッドはマットレスのみ、食器もレンタルなどはなかったのが早急に買う必要がありました。食料品やちょっとした生活用品を売っているスーパーは大学前やメトロ駅前にもありますが、1 駅先の Créteil Soleil というショッピングセンターが便利です。Carrefour というコストコのようなスーパーや、H&M や ZARA より安い Primark というお店が便利でよく行っています。またバスで 15 分ほどのところには IKEA の入ったショッピングセンターもあります。

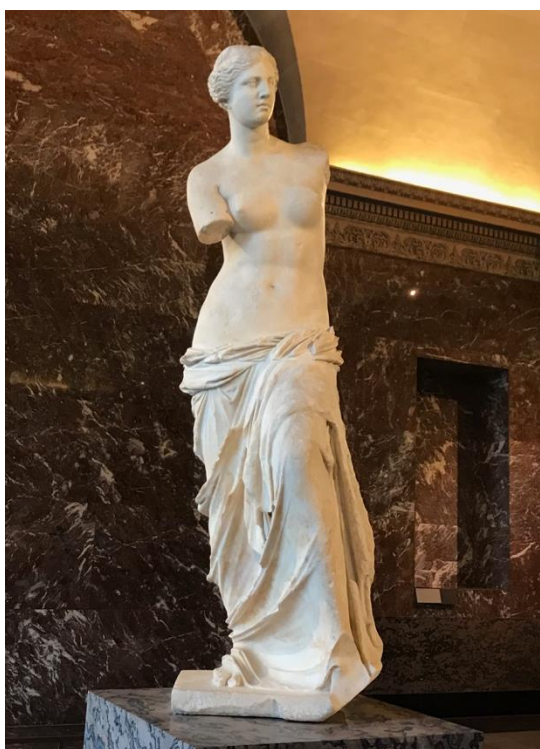
授業によっては教科書を買うように指定されることもあるので、あちこちの本屋を回ってきました。Fnac というチェーンの本屋はあちこちにあって便利ですが、学術的な本はあまり見かけませんでした。パリのシテ島近くの Gibert jeune は古本と新刊を並べて売っていて面白いです。同じ本を状態と値段を比べながら買う事が出来ます。教科書は古本でも高いのでここで買う事が多かったです。またオペラ座近くにはジュンク堂書店があり、日本語の本を買う事が出来ます。

留学してから約一ヶ月が過ぎましたが、いろいろな手続きでバタバタしているうちに終わってしまったという印象があります。だんだんとこちらの生活や学校にも慣れてきたので、これからの留学生生活をより有意義なものにしていきたいと思います。

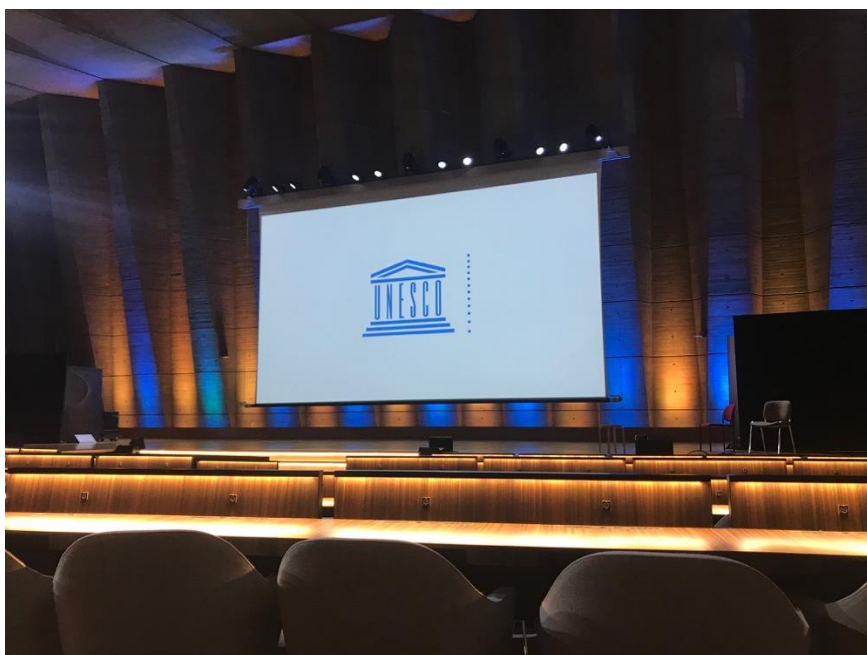
以下、いくつか写真を載せます。



←入寮した直後の様子



↑滞在時間は非常にわずかでしたが、ルーブル美術館に行ってきました。学生ビザを持っていればいつでも無料で入れるので、時間のあるときにゆっくり行こうと思います。



9月の第3週土日はヨーロッパ文化遺産の日（journées du patrimoine）で、多くの施設が一般に無料開放されます。上の写真はユネスコ本部、下は国会議事堂です。これら以外にもシャトレ座やフランス国立銀行などを訪ねました。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2019/10/01~2020/02/29)

・ 勉学の状況

前期の授業は12月で終了しました。学部では2年生向けの *la littérature française 19^{ème} siècle* (19世紀フランス文学)、3年生向けの *stylistique* (文体論) を取っていました。フランス文学の授業は、ロマン主義、写実主義といった文学運動の流れを学びました。最初の授業の数回は、文学よりも19世紀のフランスの歴史に重点がおかれていました。当時の小説や詩、演劇作品からテキストを抜粋したプリントが配られ、どのような点に文学運動の主張が現れているかを解説される形で進みました。履修している学生は十数人でしたが、ほぼ半数を留学生が占めていたように思います。

本来であればテストが1月中旬にあったのですが、ストライキの影響で試験期間の延期が続いたため、留学生にはテストの代わりにレポート課題が出ました。課題はロマン主義が19世紀のフランスに及ぼした影響を論じるものでしたが、わかっているつもりでも実際に言葉にすることは難しく、まだまだ理解が足りていなかったこととフランス語での作文能力の乏しさを痛感しました。

一方で、文体論の授業は最初に専門用語や概念の解説を受けた後、小説を1冊取り上げて分析していくという形で進みました。小説はフランスの作家 Sophie Divry の *« Quand le diable sortit de la salle de bain »* という作品でした。この授業で取り上げられた基礎的なものについては千葉大の授業でも学んだものが多かったのですが、小説の分析は難しく、先生の解説についていくのも精一杯でした。

こちらのテストはストライキが落ち着いた2月上旬に行われました。課題図書から抜粋されたテキストを分析するものでした。留学生は4問中3問に答えれば良いと言われており、辞書も使えたのですが、どの問いにもうまく答えられた自信がありません。

学部のレポート、テストを通じて文章の組み立て方や言葉の選び方ができていないと実感したので、後期はその点を伸ばせていけたらと思っています。またどちらの授業でも、わからないことはなんでも授業中に聞いて良いと先生がおっしゃってくれたのですが、ノートをとることと先生が何を言っているかを聞き取るのに必死になってしまって全く余裕がなかったので、予習復習をきちんとして、少しでも発言できるようになりたいと思います。

留学生用のフランス語の授業 (DEL CIFE) では *Expression écrite* (文章表現)、*Compréhension de l'écrit* (文章読解)、*Expression orale* (口頭表現) の授業を取っていました。文章表現のクラスでは、毎回最初に先生が文法解説をした後、添削された作文の修正

や、与えられたテーマでの作文を行いました。文章読解のクラスはフランスの文化や歴史、時事的なことに関する文章を読むものでしたが、毎回知らない語彙が多く、ついていくのが大変でした。口頭表現のクラスでは学生同士でペアを組んで会話やゲームをしたり、フランスの文化に関するトピックを選んでプレゼンを行ったりしました。

学期中に2回ほどテストがあり、その結果と出席状況で成績がつくようでした。

前回の報告書でも触れましたが、授業外の活動として、Carnet de voyage autour du livre という本に関するガイドを留学生の視点から作るプロジェクトに参加しました。マザラン図書館やフランス国立図書館 (BnF)、そのほか編集社や個人経営の本屋を巡り、そこで働く方々からお話を聞きました。それらを踏まえて個人の印象をまとめたページを合わせてガイドにします。最終的な取りまとめを留学コーディネーターの方がしてくださっているので、完成品を見るのを楽しみにしています。

1月末からは後期が始まりました。大学のHPに載っている、Emploi du temps という週ごとの時間割と授業シラバスを見て履修する授業を決めます。履修する科目を決めたら、コーディネーターから送られてくる contrat d'étude という用紙に記入し、コーディネーターからサインをもらいます。その後はコーディネーターが授業登録の手続きを全てやってくださいます。

今期は学部で Introduction à la littérature comparée (比較文学入門、2年生向け)、Stylistique de la prose (文体論、2年生向け) を履修し、Histoire phonique et graphique du français (フランス語の音声学および書記法の歴史、3年生向け) を聴講しています。また DELCIFE では Initiation aux beaux arts (美術入門)、Expression écrite (文章表現) を履修することにしました。

比較文学入門のテーマは「変身」で、オウィディウスの『変身物語』、カフカの『変身』、イヨネスコの『犀』の3つの作品が授業で取り上げられています。板書が全くなく先生が話し続けるタイプの授業なので、理解が追いつかないことが多々ありますが、フランス人の学生にノートを見せてもらうなどして勉強しています。

文体論の授業は、60分講義、90分少人数での演習という形式で進んでいます。現在はレトリックや記号学について学んでいますが、とにかく知らない用語が多いので、参考書での予習復習を欠かさないようにしています。

音声学および書記法の授業は、少人数の演習形式で(留学生も私を含めて2人しかいません)授業内で例題を解き、先生が解説するスタイルです。現在は、ラテン語からどのように発音的变化を経て今のフランス語になったのかを学んでいます。

DELCIFE では、語学のクラスが前期の intermédiaire (中級、B1) から avancé (上級、B2/C1) に上がりました。前期の成績が5割を超えていれば進級できるとのことで、新

たにレベル分けテストを受けることもありませんでした。Avancéのクラスには文化とフランス語の2系統の授業がありますが、どちらも1つずつしか取れないようです。

美術入門の授業では、宿題を答え合わせした後に、先生が美術作品を紹介、解説しています。今後、自分で選んだテーマに沿ってプレゼンを行う予定です。

文章表現の授業では、作文をするというよりも文章を読み、先生や他の学生と意見交換をすることの方が多いです。どちらの授業でも前期より発言できるようになってきたので、これからも続けていきたいと思っています。

また前期と同様に、後期も留学生のプロジェクトに参加しています。昨年度パリ東大学に留学されていた先輩もやっていたものですが、4月に行われる文学部の学祭、les L de la nuit というものです。今年のテーマは analepse (文学理論の用語で後説法、昔の事柄を後から語ること。映画ではフラッシュバック) というもので、私たちのプロジェクトでは留学したきっかけを analepse として現在のフランスでの生活と対比させ、またフランス語と自国語を交えて発表することになりました。イタリア、オーストリア、ルーマニア、中国、日本からの留学生と留学コーディネーター、サポートしてくれるフランス人学生と週一回集まって準備を進めています。

・生活の状況

12月5日から、マクロン大統領が進める年金改革に反対して、フランス全土の公共交通機関がストライキに入ったことが記憶に新しいです。5日当日に限っては、警察消防病院などもストライキに入ったところもあると聞きました。せいぜい1,2週間で終わるだろうと高を括っていたのですが、実際に交通網が復帰したのは1月下旬でした。パリ市内に限ると、メトロは自動運転化されている2線を除いて平日ラッシュアワー時にしか動かず、バスも本数を大幅に減らしていました。年末年始に友人が遊びにきてくれたのですが、交通手段を気にして思うように遊びにいけなかったのが残念でした。

また大学もこのストライキによって、授業がなくなったり、テストが延期され続けたりなど大きな影響を受けました。いつまでストライキが続くのかとフラストレーションが溜まる日々でしたが、実際に住んでみなければわからない、フランスの一面を知ることのできた機会だったのかなと今になっては思います。この年金改革に反対する運動は今も続いており、先日パリに出た際にデモ隊と遭遇しました。大規模なデモはしばしば暴力沙汰に発展するため、武装した警官や警察車両がいたるところにいました。

また教育制度改革もここ数年行われており、これに反対して教職員のストライキがフランス各地で起きているようです。私のとっている授業でも、まるまる1回の授業を使ってみんなで教育制度について話し合ったこともありますし、教室変更になっている先に行ったところ、先生による演説集会だったということもありました。

2月に入ってから、フランスでもコロナウイルスの感染者が増え、大学や寮から注意喚起と感染拡大地域への渡航自粛と行ったメールが届くようになりました。ヨーロッパでアジア人への差別が広がっていると聞きます。幸い私はそういった目に遭ったことはありませんが、パリやショッピングセンターなどへ外出する際はいつもより周りを警戒するようになりました。こちらではマスクを予防用に使うことがなく、また薬局にもほとんど売っていないためマスクはしていませんが、手用の消毒液の使用や手洗いうがいを頻繁にしています。

前回の報告書で社会保険加入と住宅補助（CAF）について書きましたが、以下は補足になります。社会保険に入る際に入力した内容にミスがあったため、一旦申請がキャンセルされて最初からやり直すことになりました。11月中頃にその処理をしたのですが、保険証の仮証明書が出たのが1月頭で、3月になった現在もまだ本証明書が出ていません。本来なら本証明書を手にいれた後、Carte Vitaleという保険カードを申請して受け取るのですが、自分の留学中には間に合わないのではないかと心配になってきています。

CAFについても同様で、住居人番号とオンラインアカウントに必要なパスワードは届いたものの、肝心の書類選考がまだ終わっていない状況です。1駅離れたところにCAFの事務所があるので、直接行って進行状況を尋ねてみるべきか悩んでいるところです。

最後に寮費の支払いについてです。渡航前に寮との契約で最初の3ヶ月分を支払うことになっていたため、こちらで支払うのは12月からでした。フランスで開設した銀行口座からしか支払えないのかと思っていたのですが、日本のクレジットカードでも払うことができました。1駅離れている寮に私の住んでいる寮を管轄する事務所が入っているため、そこまで出向いても支払うことができますが、週一回は私の寮にもそのスタッフが来るため、そのタイミングで払っています。

この半年でフランス人の友人も徐々に増え、ルームメイトとの会話も英語からフランス語に切り替えたことで、だんだんフランス語を生活の中で使うことに慣れてきたように思います。とはいえまだまだ言いたいことをうまく伝えられずもどかしい思いをすることが多いので、コツコツ勉強を続けていきたいと思っています。

以下、写真をいくつか載せておきます。



左) 中央キャンパスに入ったところの写真です。見えている建物は文学部です。このほか理学部、図書館、食堂などがあります。

右) 向かって左が DELCIFE の教室、右が経済学部の建物です。ガラス張りのところは経済学部の図書館になっています。



パリ、オペラ座前に集まるデモ隊の様子です。この後もっと人数が増え、通りを歩き始めました。今までもデモに遭遇したことはありますが、この規模のものにここまで近づいたことは初めてだったので少し怖かったです。



クリスマスシーズンに合わせて、パリ東大学に同じく留学している友人と、フランス東部のストラスブール、コルマール、またドイツのシュトゥットガルトへ旅行しました。

左) シュトゥットガルトのクリスマスマーケットの様子。

右) ストラスブールの旧市街の風景。

留学報告書 (2020/03/01-2020/06/30)

・勉学の状況

COVID-19の影響で3月16日(月)以降、大学が閉鎖されたため、授業はオンラインに移行しました。3月12日(木)のマクロン大統領の演説でこのことが発表されたので、金曜日の授業については事前にオンラインでの授業方法などを教えてもらうことができました。オンライン授業は、主に千葉大のmoodleに似ているEprelというサイトを通して行われました。学部の授業はリアルタイムではなく、講義内容がPDFで配布され課題を提出する形でした。語学の授業はzoomなどを使ってリアルタイムで行われました。

後期にとっていた学部のStylistique de la prose(文体論)は、前期の文体論と同じ先生だったので、私の顔を覚えていてくださったらしく、内容を理解しているか確認したり、板書を多くしたりするなど配慮していただきました。例題のテキストを使いながら修辞技法の用語や概念について学んでいますが、フランス語の言葉遊びや比喻表現などを扱うため授業についていくのが大変です。文学作品を読む上では比喻や修辞の理解は欠かせませんが、母語ではないため直感的に理解できないのが苦しいところです。オンライン授業に変わってからは、今までほぼ口頭で説明されていたものが文章になって配布されるので、皮肉にも授業を受けやすくなりました。中間課題や最終試験はレポート形式で、時間制限内に与えられたテキストの分析をまとめ、提出しました。

同じく学部のIntroduction à la littérature comparée(比較文学)では、「変身」をモチーフに作品を読み解いています。カフカや古代ギリシャ神話など知っている作品についての言及や解説については、かなり聞き取って理解できるようになりました。オンライン授業への移行があまりスムーズではなかったのですが、こちらも文章での解説を読み、最終レポートを提出しました。

留学生向けの語学授業のInitiation aux Beaux-Arts(美術入門)は、国籍の様々な留学生が集まっているせいか、とても賑やかに授業が進んで楽しいです。また先生の配偶者が日本人とのことで、日本の美術や文化について話がふられることもあります。プリントを使いながら各時代の美術様式や技法、関連する語彙を学んだあと、先生が有名な美術作品について解説します。各自テーマを決めてプレゼンテーションを行う予定だったのですが、ちょうどそのタイミングでオンライン授業に移行してしまったため、zoomを用いてプレゼンすることになりました。私はréinterprétation(再解釈)というテーマを取り上げて、ゴッホと浮世絵の関連など過去の作品からテーマ・構図に影響を受けた作品について論じました。

Expression écrite(文章表現)は履修している学生が少ないので、先生が色々と話を振ってくださるのですが、あまりうまく返答することができず歯がゆい思いをすることが

多々あります。コロナ禍での生活の変化や自分の出身国の文化など自分に身近なことから、地産地消の可否や誰とも即座に繋がれるインターネットに対する意見など幅広い問いに対して作文を書き、添削を受けています。オンライン授業はリアルタイムで行われたのですが、現地時間が日本の深夜にあたるため、そういう意味ではかなり負担の大きな授業でした。

4月の学部祭に向けて準備していた留学生の発表も COVID-19 の影響を受けて立ち消えになってしまいました。舞台設定や出演順、演出などを決めたり、予行練習をしたりするなどかなり大詰めになっていたのもとても残念です。

・生活の状況

3月に入ってからは、中国や日本の状況を見て、かなり COVID-19 に対する危機感が強まっていたので、なるべく外出を避けて過ごしていました。ヨーロッパではアジア人を警戒する人が多くなり、私もメトロに乗った時にマフラーで顔を覆った白人親子から避けられたことがあり、アジア人差別を感じて嫌な気持ちになりました。薬局にマスク売れ切れの表示があったり、スーパーでパスタが品薄になっていたりなど段々状況が変化している前兆はあったのですが、3月12日の大統領演説で学校やレストラン、遊興施設の閉鎖が決まると一気に空気が変わったように感じました。ヨーロッパでは国境封鎖が始まっていたので、EU圏の留学生は帰国する人も増え始めました。

3月13日に千葉大学の留学生課からヨーロッパに留学中の学生に対して原則留学中断か中止を要請されたため、私も帰国のタイミングを考えていました。そんな中で16日の大統領演説で17日正午から外出禁止令が発令されることが公表され、どのようなレベルで外出できなくなるのか、帰国便が飛ばなくなってしまうのではないかなどと不安になったため、急遽17日中にフランスを出国することを決めました。同じ寮に住む日本人留学生と一緒に帰国することにしたので心強かったのですが、一晩で部屋を片付けて荷物をまとめるのはとても大変でした。

本当に短時間で帰国を決めたので、留学生課の方や現地のコーディネーター、両親には大きな迷惑をかけてしまいましたが、手厚くサポートをしていただけたことに感謝しています。

事務手続きを全くせずに帰国したので、以下に帰国後行った手続きを記します。

・寮の部屋について

管理人の立会いのもと行われる退寮する際の手続き (état des lieux) をできなかったため、部屋を入居前の状態にまで片付け、鍵をルームメイトに預けておきました。帰

国後に管理人と連絡を取り、部屋の確認と鍵の回収をお願いしました。3月分の寮費は入居時に払ったデポジットから差し引かれ、残額は払い戻しを受けました。今回は月半ばで帰国する留学生が多かったため、通常の1ヶ月分より減額されていました。

・携帯 SIM の解約

私が契約していた Free の SIM は 100G/月で 20 ユーロととてもお得だったのですが、解約は直接対象店舗に行くか、手紙で解約願いを出さなければならなかったのがその点は不便です。ネットで解約方法を調べて手紙を送り、約 1 ヶ月後に無事解約されました。

・電気の解約

相部屋のルームメイトが 5 月初旬までフランスに残っていたので、私の帰国直後には手続きはしませんでした。私名義で契約していたのですが、ルームメイトが 4 月以降の支払いや解約をやってくれることになりました。ネット上の個人アカウントページから解約できるようなのですが、なかなかうまくいかず結局サポートセンターと直接やり取りをしたそうです。

・最後に

12 月から 2 ヶ月近く続いた交通機関のストライキや COVID-19 の感染拡大の影響で、自分が思い描いていた留学生活にはならなかったのですが、総合的には良い経験をたくさんできたと感じますし、とても楽しかったです。学業面では、自分の専門分野にたいしてより一層興味が湧きましたし、国際的社会的な問題への意識をより高く持つようになりました。また旅行などを通じてフランスならではの風景や文化を体験できた一方で、事務手続きの全般的な雑さや日本よりも悪い治安などどの国の暮らしにも一長一短あることを実感しました。今後の進路は就職を選んだので、あまりヨーロッパに行く機会はないことが残念ですが、これからも語学の勉強を続けるなど何かしらの接点を保っていきたいです。

いままで留学を応援し、サポートしてくださったことに本当に感謝しています。ありがとうございました。